(33)

氏名(生年月日)　大村　秀俊（オオムラ　ヒデトシ）
本　　籍
学位の種類　医学博士
学位授与番号　乙第294号
学位授与の日付　昭和52年10月21日
学位授与の要件　学位規則第5条第2項該当（博士の学位論文提出者）
学位論文題目　**粘膜内胃癌の予後に関する臨床的研究**
論文審査委員　（主査）教授　遠藤　光夫
（副査）教授　石井　妙子，教授　森崎　直木

論文内容の要旨

研究目的

早期胃癌は治癒可能性の大きい癌腫と理解されているが，再発，不幸な転帰をとるものもある．どのような因子が早期胃癌切除患者の予後を左右するか明らかにしようとした．

検索対象

東京女子医大消化器病センターにおいて胃切除術が施行され，1年以上経過した粘膜内胃癌174例中，消息の明らかな168例である．

検索結果

1）5年遠隔成績は92.5%であつた．

2）性別にみた5年遠隔成績で男性97.8%，女性85.2%であつた．

3）年齢別にみた5年遠隔成績でとくに60歳以上のものが88.0%ともつとも悪い．

4）肉眼型別にみた5年遠隔成績でI型のもの87.5%，IIc＋III型のもの85.7%，IIc型のもの89.3%であり，他のものはすべて100%であつた．

5）癌腫の最大長径別にみた5年遠隔成績で6cm以下のものに比して，6cm以上のものは66.7%でもつとも悪かつた．

6）占居部位は予後を規制する因子ではないようである．

7）局在部位別にみた5年遠隔成績で大弯にあるものは100%でもつともよく，前壁にあるものは88.2%でもつとも悪い．

8）術式別にみて5年遠隔成績を論じうる資料はえられなかつた．

9）肉眼的リンパ節転移度別にみた5年遠隔成績で，N（−）のものは96.2%，N_1（＋）のものは87.5%，N_2（＋）以上のものは87.5%であつた．

10）組織学的リンパ節転移度別にみた5年遠隔成績でn（−）のものは96.0%，n_1（＋），n_2（＋）以上のものは50.0%であつた．

11）組織学的口側断端および肛門側断端の癌遺残別にみた5年遠隔成績は口側断端のみに癌遺残のあるものの症例数がいちじるしく少なく，論じえなかつた．

12）胃壁内リンパ管侵襲別にみた5年遠隔成績でリンパ管侵襲のないものは92.8%，あるものは90.0%であつた．

13）胃壁内静脈侵襲別にみた5年遠隔成績は静脈侵襲のあるものがわずか2例であつて論じえなかつた．

14）組織型別にみた5年遠隔成績で，分化型腺癌は100%でもつともよく，印環細胞癌は81.8%でもつとも悪かつた．

15）癌腫の周囲組織に対する浸潤増殖様式別にみた5年遠隔成績で INFα のものは94.2%，INFβ のものは82.4%であつた．

これら検索結果は今後早期胃癌の治療をすすめる上で，臨床上きわめて大きな意義を有するものと考えられる．

論 文 審 査 の 要 旨

本論文は早期胃癌のうち粘膜内癌について，その予後を臨床的に検討を加えたものである．早期胃癌の治療上大きな意義を有し，学術上価値あるものと認める．

主論文公表誌

粘膜内胃癌の予後に関する臨床的研究．
日本外科学会雑誌　第78巻　第9号　1～12頁
（昭和52年9月1日）

副論文公表誌

1）早期胃癌における癌深達度と遠隔成績，
臨床外科　31（1）15～18（昭51）

2）高齢者の上部胃癌．
臨床外科　31（11）1473～1476（昭51）

3）直腸に原発したとおもわれる髄外性形質細胞腫の1例．
日本消化器外科学会雑誌　10（1）101～105（昭52）

4）食道空腸 Roux Y 型吻合．
外科治療　36（3）310～316（昭52）

5）十二指腸潰瘍に対する胃迷走神経切断術—選択的迷走神経切断術兼幽門洞切除術と選択的近位迷走神経切断術について—
東女医大誌　47（7）771～776（昭52）